



令和7年度
Vol.3

グリーンメール

鳴門藍住農業支援センターだより



「Do it yourself (DIY)」をテーマにフォーラムを開催しました！

令和7年10月2日、徳島県立総合教育センターにて、「男女に築く豊かなくらしフォーラム」を開催しました。

フォーラムでは、基調講演として、徳島県農村健康管理センターの尾田氏より「自分の健康もDIYで」と題して、元気な人の特徴や健康増進のポイントについてご講演いただきました。事例発表では、鳴門藍住地区農業青年クラブ連絡協議会の大島氏より「農業版DIY！～土地利用型作物Ver.～」と題して、青年クラブでのDIYの取り組みや、地域課題解決に向けたDIYの取り組みについて、同協議会の笠岡氏より「農家のこだわりをお客様へ」と題して、就農のきっかけや自身の夢についてご発表いただきました。また、県農産園芸研究課の安宅氏から「徳島型低コストハウスの開発目的と実証試験」と題して、低コストな建設足場管園芸用ハウスの開発と実証試験についてもお話いただきました。



徳島県農村健康管理センター 尾田氏



青年クラブ 大島氏



青年クラブ 笠岡氏

今後も農業分野においては「農業版DIY」の取り組みが更に展開し、管内においても関係者の協力による課題解決に向けた農業が拡大することが期待されます。

また、恒例のお楽しみ抽選会では、れんこん等の農産物をはじめ、柄部をデザインした大人気の「デコ鎌」が当たるたびに大きな歓声上がるなど、約90名の参加者が大いに盛り上がりました。

就農相談受け付けています

農業を始めるために、必要な農業の基礎知識、経営・技術の習得、資金融資や農地などについて不安や疑問に応える相談に応じております。お気軽にご連絡ください。

相談方法 電話、面談（来所の際は事前に電話でご連絡ください）

〒771-1220

徳島県板野郡藍住町東中富字舩傍示29

TEL：088-692-2515

FAX：088-692-0355

快挙！徳島県の若手農業者2名が全国大会へ ～「中四国地域若い農業者のつどい」でW受賞～

令和7年10月29日（水）・30日（木）に愛媛県で開催された「中四国地域若い農業者のつどい」において、徳島県代表として出場した若手農業者2名が、全国大会への出場権を獲得する快挙を成し遂げました。

意見発表の部で最優秀賞に選ばれたのは、鳴門市の笠岡氏です。「つなぐ～農家のこだわりをお客様へ～」と題した発表では、元料理人という経歴を活かし、農業・農産物の魅力発信に力を入れている点が審査員から高く評価されました。

また、プロジェクト発表の部では、鳴門市の大島氏が「農業版DIY～土地利用型作物ver～」で優秀賞に選出されました。これは、地域や農業の課題を「農業版DIY」と位置づけ、自分たちで工夫し解決する取り組みを発表したものです。

徳島県から2名が全国大会へ駒を進めることとなり、令和8年3月に東京都で開催される全国大会での更なる活躍が期待されます。

今回の「中四国地域若い農業者のつどい」は、魅力ある農業・農村の創出に努める中国四国地域の若い農業者が一堂に会するものです。広い視野から農業経営や農業青年の役割について知見を得て、交流を深めることにより、日頃直面している課題への解決手法を見いだすとともに、農業・農村の担い手としての資質向上を図ることを目的としています。1日目は松山市立子規記念博物館で各県代表者による発表会が、2日目には今後の経営や協議会活動に活かすための現地研修が行われました。



左から：大島氏、笠岡氏



笠岡氏



大島氏

12月の栽培管理

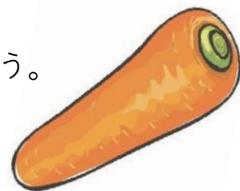
にんじん

<播種前の管理について>

- 基肥は播種10日前までに全面に施用し、できるだけ丁寧に深耕し、高畝としましょう。
- 播種前に土を十分に耕耘し、保水性と通気性を高めておきましょう
- しみ腐病、根腐れ病の発生が危惧される圃場は、ユニフォーム粒剤を散布しましょう。

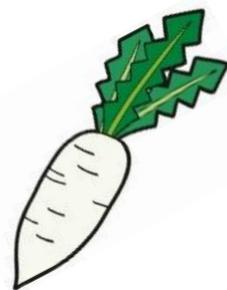
<12月の管理について>

- 生育初期の乾燥に注意しましょう。
- 本葉5～6枚頃に芯葉が埋まらない程度に充分土寄せし、青首を防ぎましょう。
- 菌核病の多発圃場では、土寄せ前と10～20日後に薬剤散布し、菌核病の発生を抑制しましょう。
- 害虫予防については発生初期の防除を徹底しましょう。



だいこん

- 間引きは本葉6～7枚時に丁寧にいきましょう。
- 追肥の目安は、1回目は本葉6～7枚の時期、2回目は本葉10～12枚目の時期ですが、雨が多いと肥料切れを起こしやすくなります。生育に応じて追肥するよう気をつけましょう。
- 暖冬多雨の時には黒斑細菌病の発生が多くなります。本葉12～13枚頃から定期的な防除を行い、適期収穫に努めましょう。
- 害虫防除については発生初期の防除を徹底しましょう。
- 収穫適期を逃さず、品質の良いだいこんの出荷に努めてください。
- 12月以降低温が予想される場合は、生育が極端に遅くなる場合があります。べたがけ資材で被覆しましょう。



徳島県公式LINEで「農業に関する情報」を発信しています

ステップ①



上記QRコードから徳島県公式ラインを登録します。

広報情報または右下の「受信設定」を押下します。(右画像参照)

ステップ②



「農業に関する情報」の「受信する」にチェックを入れ、送信を押下します。(右画像参照)

ステップ③



ステップ④

登録完了。補助金情報や病害虫発生情報等が受信できます。

ブロッコリー

<定植後の管理について>

- 追肥は3～4回に分けて施し、定植後2週間を目安に1回目の追肥、2～3週間程度の間隔で2回目以降の追肥を行きましょう。
異常花蕾の原因になるので、出蕾以降の遅い時期の追肥はしないようにしましょう。
一回の追肥の目安は、10 a 当たり窒素成分で3～5kgです。
- 追肥時に雑草の発生防止と株の倒伏防止のため、中耕・土寄せを行きましょう。

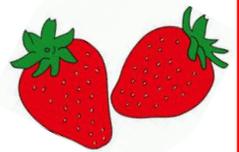
<病害虫防除について>

- アブラムシ類、アオムシ、コナガ：11月中や3月以降の暖かい時期に発生するので、ほ場の状態に応じて、殺虫剤散布を行きましょう。
- べと病・黒すす病対策として、本葉5～6葉期および出雷前に登録殺菌剤の予防散布を行きましょう。
特に外葉にべと病の病斑が見られる場合は、組織内べと病の発生に繋がるので出雷前に必ず防除しましょう。
- 菌核病は畑地では水稻後作に比べて発生が多いため特に注意しましょう。
活着後の株が小さいときに殺菌剤を株元に重点的に予防散布しましょう。



いちご <「紅ほっぺ」の管理>

- マルチ被覆までに、ハダニ類防除を徹底しましょう。
- 開花時期に合わせてミツバチを導入しましょう。導入までは害虫防除を徹底し、導入後はミツバチに影響のない農薬を使用しましょう。
- 摘果作業は、草勢に応じて頂果房を10果以下に、わき芽整理は、頂果房両側の2芽を残しましょう。
- 二重被覆や暖房機を早めに準備し、ハウス内の気温が6度以下になる頃に加温管理しましょう。
- ハウス内の気温が6℃以下になる頃に加温管理しましょう。
- 厳寒期に草丈25cmを維持できるように電照の時間、温度、肥料、水分を調節しましょう。



果樹 <収穫後から落葉までの管理>

- 落葉するまでは、病害虫を来年度に持ち越さないためにも、秋防除をしっかりと行ってください。
- カイガラムシ類、ハダニ類等の越冬病害虫対策として、機械油乳剤等を散布するようにしましょう。
- 病気の発生源となる落葉、病果は園外に持ち出すか、土中に埋めておきましょう。

